

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No17(新著の紹介)

## #12 松下佳代他著『対話型論証ですすめる探究ワーク』

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。  
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

## (ご紹介)



松下佳代  
まつした かよ

### 京都大学大学院教育学研究科 教授

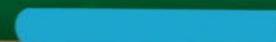
京都大学博士（教育学）。群馬大学教育学部助教授、京都大学高等教育研究開発推進センター 教授を経て、2022年10月より現職

#### 専門分野

教育方法学（特に、能力論、学習論、評価論）、大学教育学  
大学や中学校・高校をフィールドに研究と実践支援を行っています

#### 社会的活動

大学教育学会副会長、日本カリキュラム学会代表理事  
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会委員、大学分  
科会臨時委員、日本学術会議会員 など



## 新著の紹介

松下佳代・前田秀樹・田中孝平著『対話型論証で  
すすめる探究ワーク』勁草書房（2022年11月）



松下佳代著『対話型論証に  
よる学びのデザイン』勁草  
書房（2021年）



### <目次>

#### 第I部 対話型論証モデルを理解する

- 第1章 「総合的な探究の時間」と対話型論証モデル
- 第2章 問題を設定する
- 第3章 主張を考える
- 第4章 さまざまな根拠を集める
- 第5章 対立する主張・異なる主張を反駁する
- 第6章 結論を導く

#### 第II部 対話型論証モデルを習得する

- 第7章 対話型論証モデルの型を習得する
- 第8章 対話型論証モデルを使って探究を追体験する

#### 第III部 対話型論証モデルを用いて探究する

- 第9章 自分自身で探究を深める
- 第10章 探究の成果を表現する
- 第11章 探究の成果を振り返る

それではご覧ください

## YouTubeチャンネル「溝上慎一の教育論」

### 【新著の紹介】

松下佳代・前田秀樹・田中孝平著

『対話型論証ですすめる探究ワーク』

(勁草書房、2022年11月25日刊、1,980円)



京都大学大学院教育学研究科

松下佳代

matsushita.kayo.7r@Kyoto-u.ac.jp

# 関連する本・サイト



(松下, 2021)



(松下・前田・田中, 2022)



(<https://www.d-argument.net/>)

## \* 姉妹編

・表紙は、アンリ・マティスの「ポリネシア、空」と「ポリネシア、海」

# 著者紹介

## ● 松下佳代

- 京都大学大学院教育学研究科 教授
- 専門は、教育方法学(特に、能力論、学習論、評価論)。大学や中学校・高校をフィールドに研究と実践支援を行っている。

## ● 前田秀樹

- 高槻中学校・高等学校 教頭
- 国語・道徳・総合を担当。主な関心は、主体的・対話的で深い学び、カリキュラムマネジメント、探究学習、ICT利活用教育。

## ● 田中孝平

- 京都大学大学院教育学研究科 D2／日本学術振興会特別研究員(DC1)／高槻中学校・高等学校 TA
- 専門は、大学教育学。とくに高校の探究学習を通じた高大接続について、実践的・実証的に研究を行っている。

- 対話型論証とは

＝「ある問題に対して、他者と対話しながら、根拠をもって主張を組み立て、結論を導く活動」

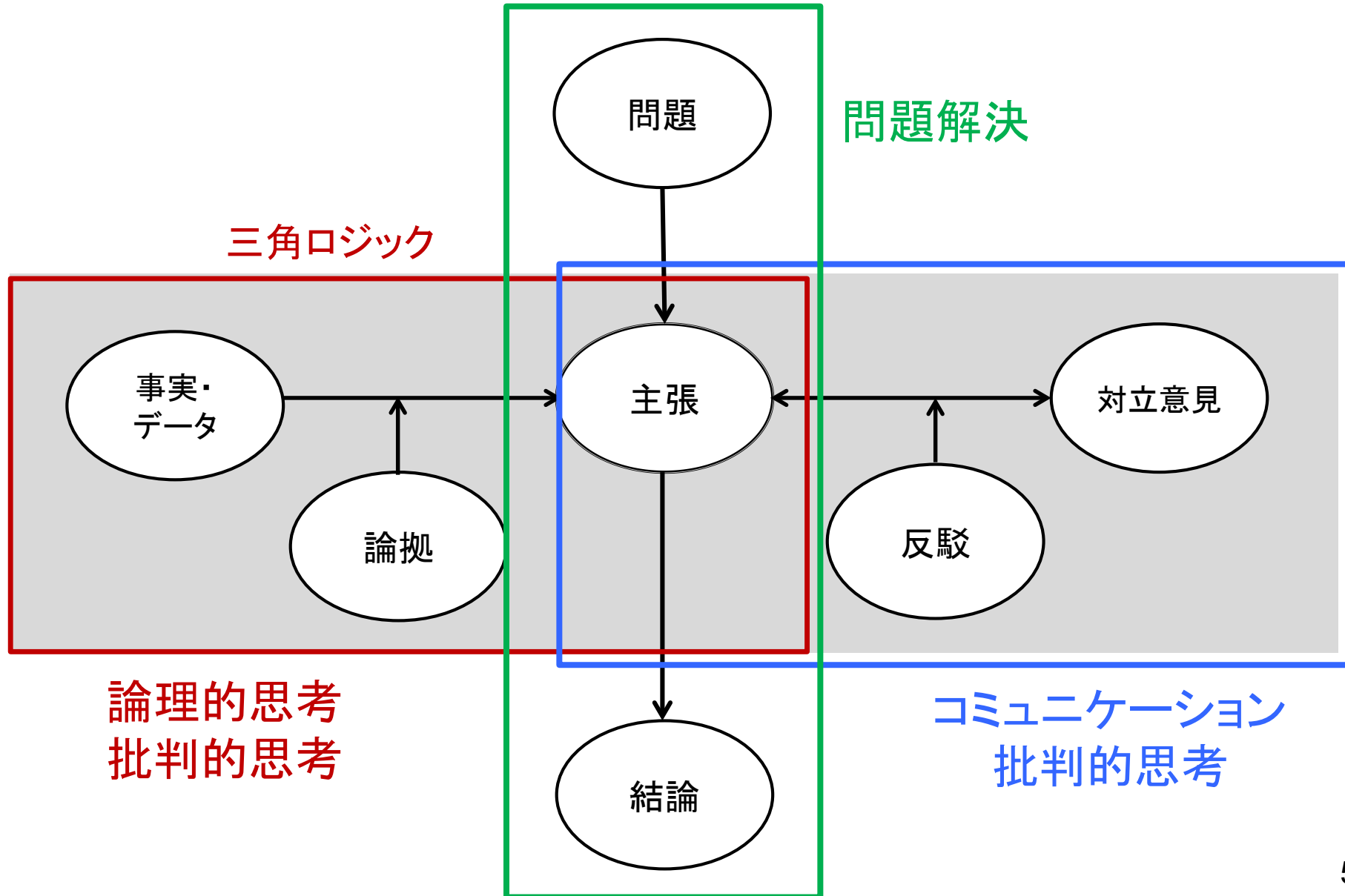
- ばらばらの能力リストを掲げるのではなく、その元になる活動に着目
- 小学校～大学、社会人／教科・分野 に関わらず重要

- 対話型論証モデル

- トールミン・モデルなどを参考に作成

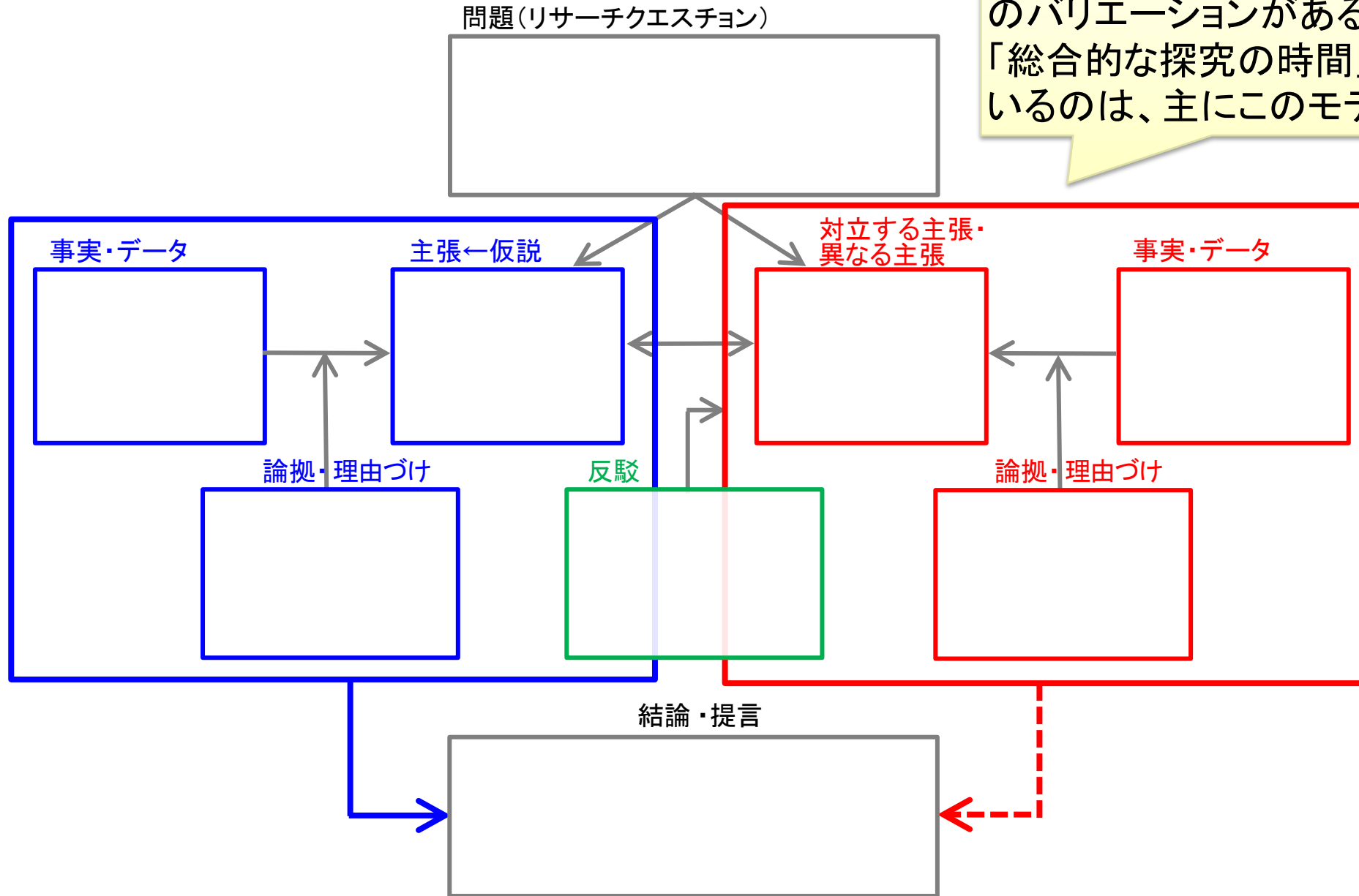


# 対話型論証モデル



# 論証モデル(ver.3)

対話型論証モデルにはいくつかのバリエーションがあるが、「総合的な探究の時間」で使っているのは、主にこのモデル



# 本書『探究ワーク』の特徴

本書は、「総合的な探究の時間」での学びを深めるためのワークブックです。教科・科目の「探究」で活用できるヒントも満載です。

- 『デザイン』本の姉妹編
- 生徒・学生が学ぶためのワークブック(↔教師・研究者向けの単行本)
- 「探究」の授業がメインだが、教科の例もあり
- 高槻中・高での実践を下敷きに
  - 高槻中・高の「総合的な学習(探究)の時間」: 中3、高1、高2
    - 高1: テーマは「キャリア探究」、方法は文献探究
    - 高2: テーマは「SDGs探究」、方法は調査探究
- 連動したサイトも開設
  - モデルや教材がDLできる
  - 学習指導案、練習問題の解答や解説も掲載(一部の内容は登録制で見られる)

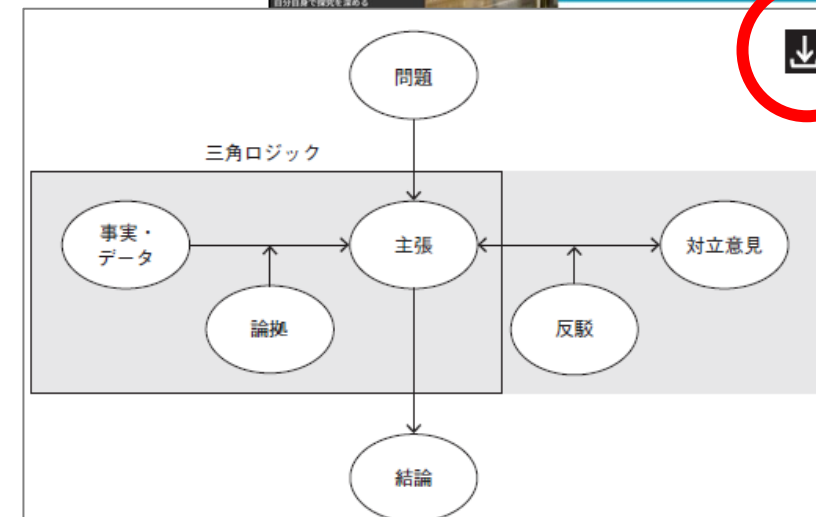


図 1.2.1 対話型論証モデル (オリジナルバージョン)

# 本書の構成—目次から—

## 第I部 対話型論証モデルを理解する

第1章 「総合的な探究の時間」と対話型論証モデル

第2章 問題を設定する

第3章 主張を考える

第4章 さまざまな根拠を集める

第5章 対立する主張・異なる主張を反駁する

第6章 結論を導く

( \* 節見出しは省略)

第I部では、探究と対話型論証モデルの関係について説明します。

まず、第1章で全体像を把握した後、第2章～第6章では、対話型論証とは何かについて、構成要素を1つ1つ詳しく解説していきます。

いわば理論編です。

## 第II部 対話型論証モデルを習得する

### 第7章 対話型論証モデルの型を習得する

第1節 既存の問題を解く(総合)

第2節 既存の問題を考える(教科)

### 第8章 対話型論証モデルを使って探究を迫体験する

第1節 ゲーム規制条例は必要か？

第2節 スマートフォンのロック解除はすべきか？

第3節 高校での文理選択は早すぎるか？

第4節 大学入試の公平性を確保するにはどうすればいいか？

第5節 ミスコン廃止をどのように考えるか？

第II部では、具体的な事例を通じて探究のモデリングを行います。

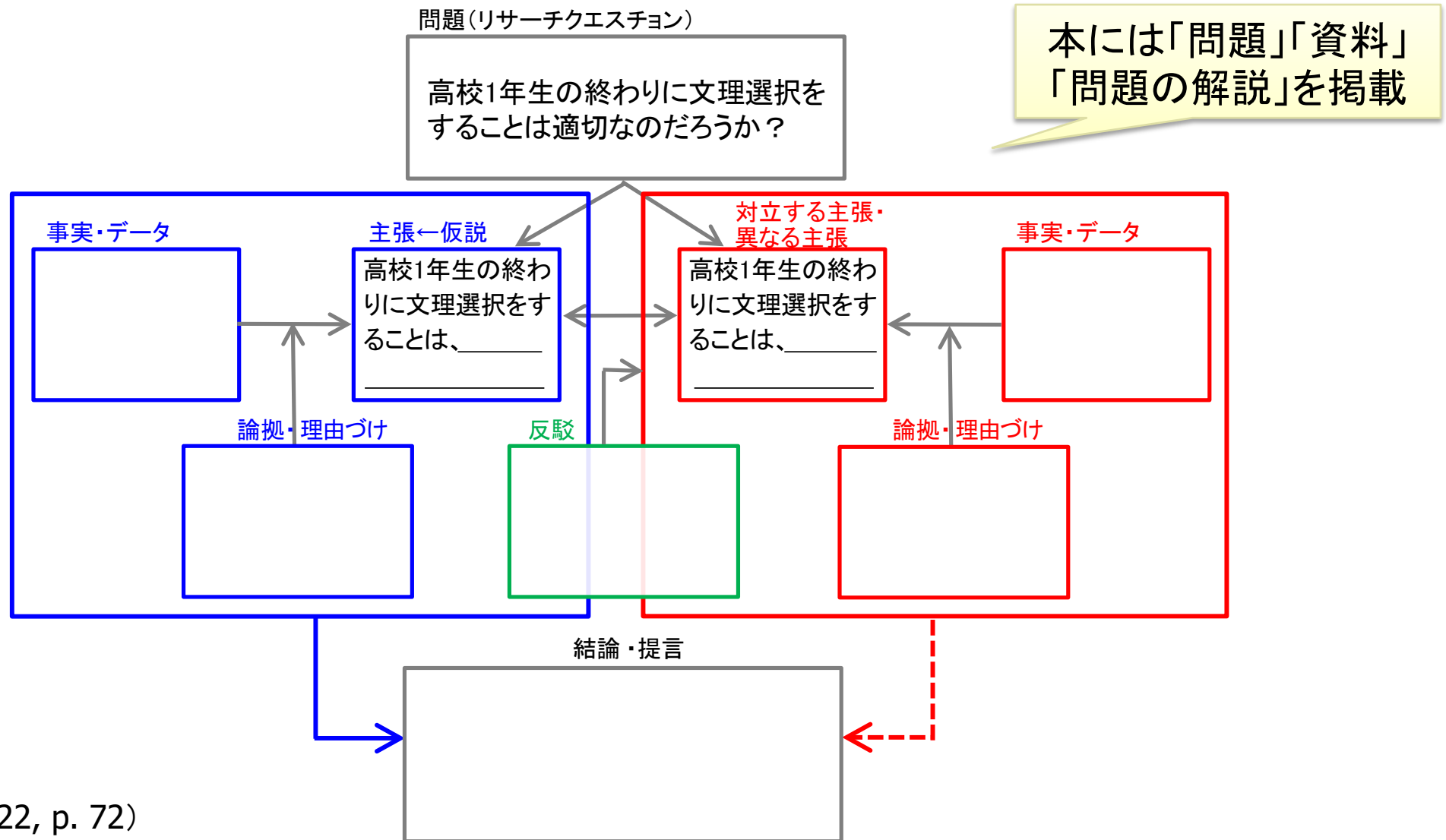
第7章では既存の問題を、第8章ではオリジナル問題を用いて探究を迫体験していきます。

学習指導要領では、探究課題の例として「国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」、「地域や学校の特色に応じた課題」、「職業や自己の将来に関する課題」を掲げています。

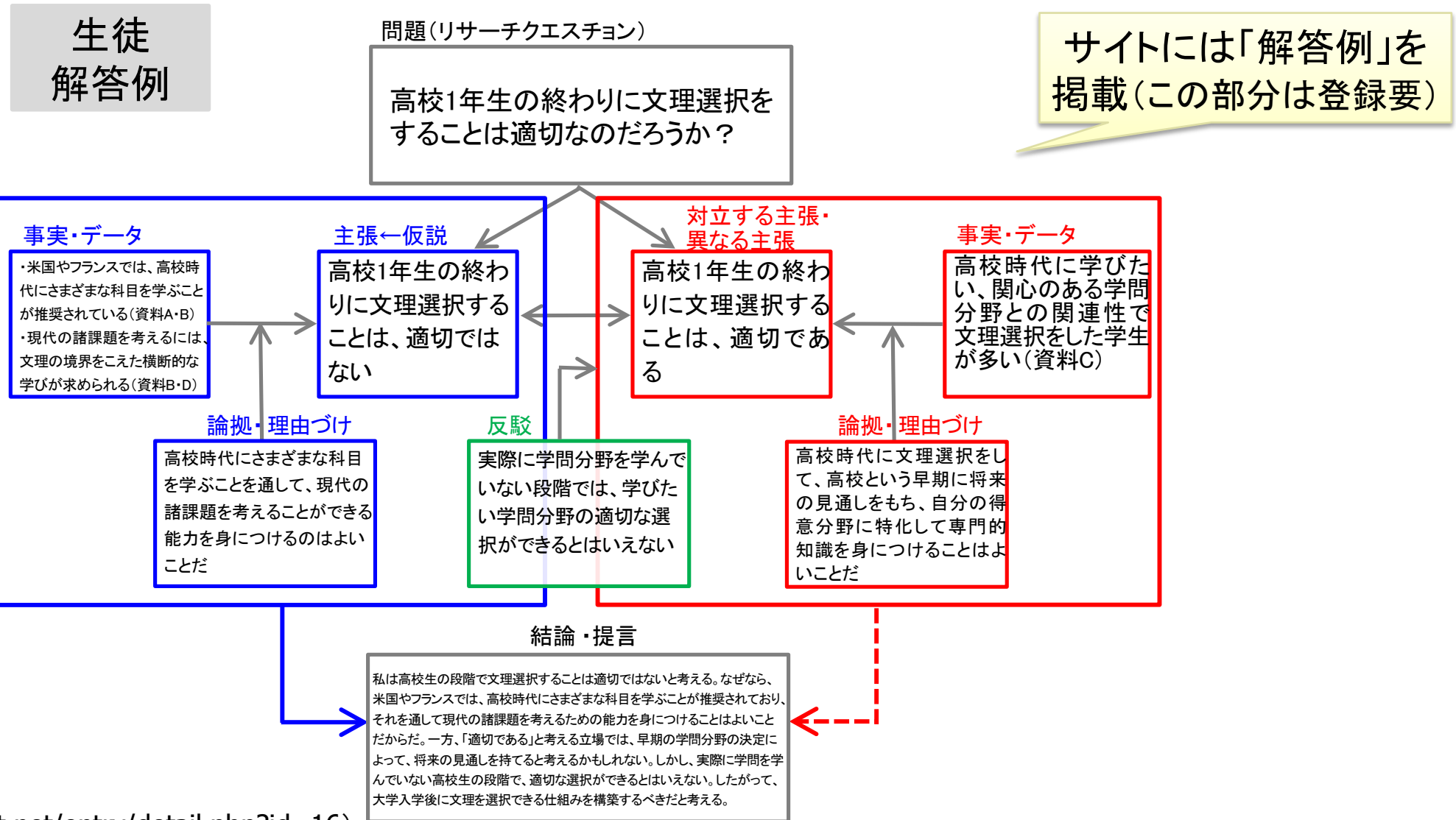
これをふまえて、第7章では、「遺伝子組換え作物」という「環境」に関わる課題と、「AIと表現の自由」という「情報」に関わる課題を取り上げます。

第8章では、「ゲーム依存・スマホ依存」といった「福祉・健康」に関わる課題に加え、高校生の皆さんの将来に密接に関わる「文理選択」や「大学入試の公平性」「大学でのミスコン」といった課題を取り上げます。

# 【例】高校での文理選択は早すぎるか？



# 【例】高校での文理選択は早すぎるか？



## 第III部 対話型論証モデルを用いて探究する

### 第9章 自分自身で探究を深める

- 第1節 探究の見通しをもつ
- 第2節 探究の雛形スライドを活用する
- 第3節 ICTを活用してスライドを教員と共有する

### 第10章 探究の成果を表現する

- 第1節 端末を活用して口頭発表する
- 第2節 ポスターセッションの形式で発表する
- 第3節 探究のレポートを作成する
- 第4節 引用の方法を理解する

### 第11章 探究の成果を振り返る

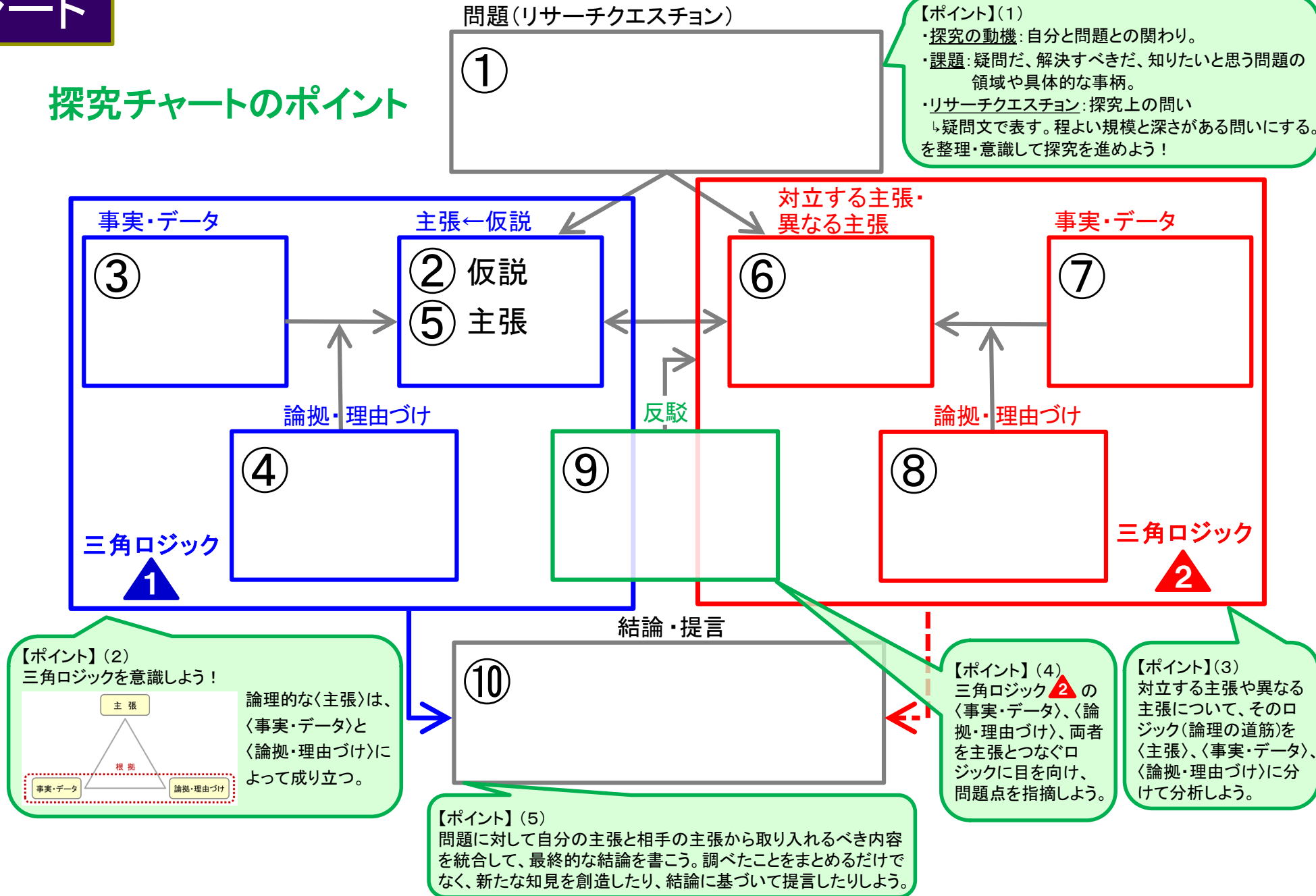
- 第1節 探究のプロセスの成果を自己評価する
- 第2節 探究を通して何を学んだのかを記録する

第III部は、いよいよ対話型論証モデルを用いて、皆さん自身が探究を始める番です。

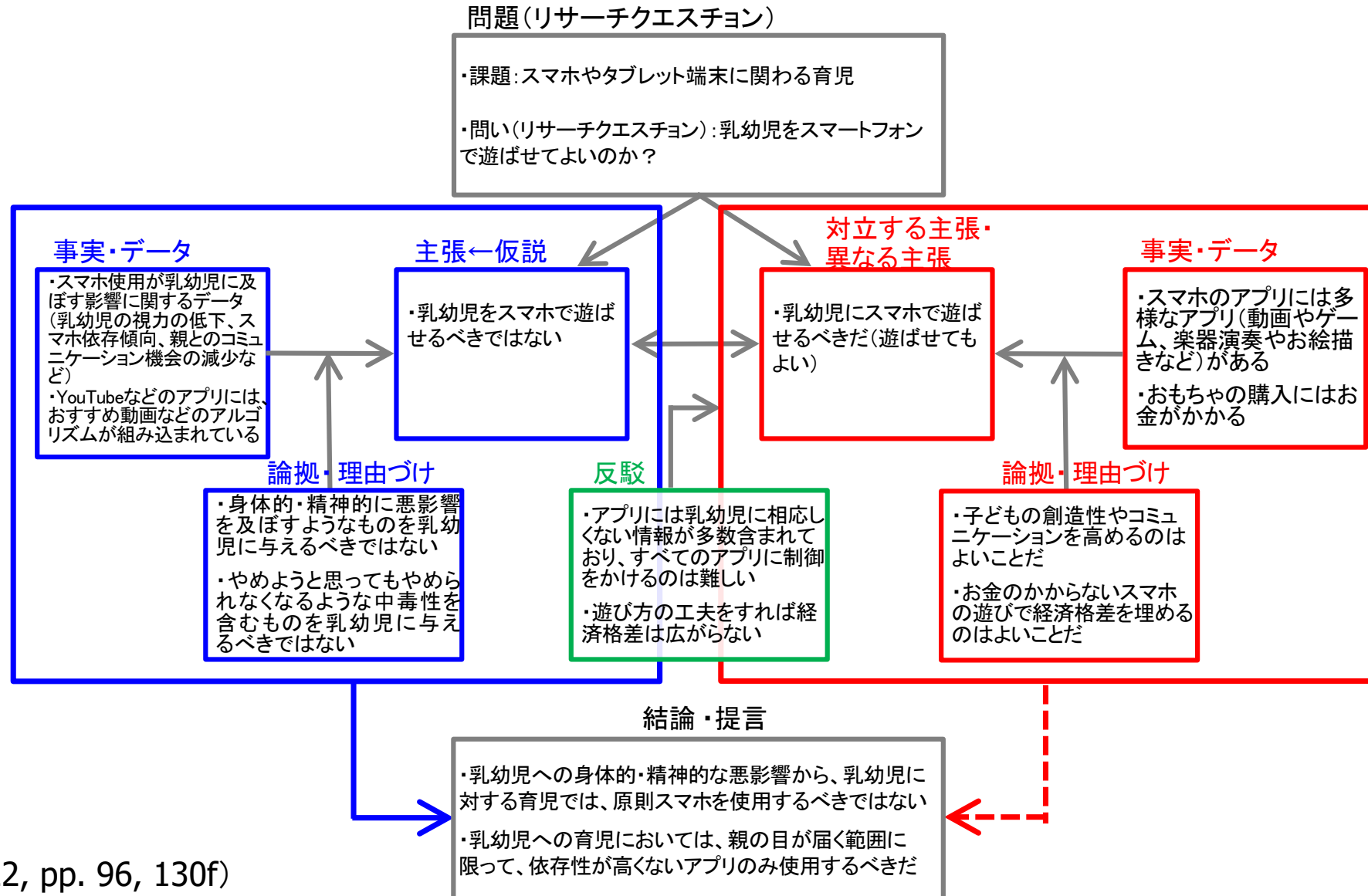
対話型論証による探究の進め方という海図(チャート)を手にもって、自分なりの探究という航海へと出かけましょう。



## 探究チャートのポイント



# 生徒が作成した対話型論証モデルの例



対話型論証ですすめる  
探究ワーク

対話型論証モデルを知る

問題を設定する

主張を考える

根拠を集める

対立する主張を反駁する

結論を導く

モデルの型を習得する

モデルを使って探究を体験する

自分自身で探究を深める

探究の成果を表現する

探究の成果を振り返る

新規登録



ログイン

コミュニティサイト

# 「対話型論証ですすめる 探究ワーク」

「対話型論証」の考え方をを使って探究をすすめるためのサイトです。  
本『対話型論証ですすめる探究ワーク』とリンクしています。

キーワードで検索



第Ⅰ部 [第1章](#) > [第2章](#) > [第3章](#) > [第4章](#) > [第5章](#) > [第6章](#) >

本の卓で検索

第Ⅱ部 [第7章](#) > [第8章](#) >

第Ⅲ部 [第9章](#) > [第10章](#) > [第11章](#) >

## お知らせ

2022.11.24

「対話型論証ですすめる探究ワーク」サイトを公開しました。

more >



- 対話型論証ですすめる探究ワーク
- 対話型論証モデルを知る
- 問題を設定する
- 主張を考える
- 根拠を集める
- 対立する主張を反駁する
- 結論を導く
- モデルの型を習得する
- モデルを使って探究を体験する
- 自分自身で探究を深める
- 探究の成果を表現する
- 探究の成果を振り返る

- ゲーム依存症対策条例問題
- スマートフォンロック解除問題
- 文理選択の是非
- 大学入試の公平性
- ミスコン問題

- 新規登録
- ログイン
- コミュニティサイト

・ぜひ、コミュニティに参加してください  
 ・登録せずにDLできるコンテンツも、たくさんあります

## 高校での文理選択は早すぎるか？

8章3節

日本の高校では、高校1年生の終わりに文理選択を行い、高校2年生から文系と理系に分かれて授業を受けるというのが一般的です。進路を選択することは将来のあり方や生き方につながります。ここでは、文理選択という課題について対話型論証モデルを用いて探究することにしましよう。

### 文理選択に関する問い

- (1) あなたは、文系、理系どちらに進むか決めていますか？
- (2) あなたが文系、理系を選択する時、その決め手は何ですか？

皆さんは文理選択を当たり前のこととして捉え、それにメリットを感じているかもしれません。しかし、変化の激しい時代、先が見通しにくい現代において、高校の早い段階での文理選択は適切なのでしょうか。

### 文理選択をめぐる対話型論証

ここでは、「高校1年生の段階で文理選択をすることは適切なのだろうか？」というリサーチエスチョンを立てたと進めていきます。

この問題を考えるために情報を収集していると、4つの資料が見つかりました。（資料は本書第8章第3節を参照してください）。

- (1) これらの情報を踏まえてあなたの立場を決め、自分が支持する立場と、それとは対立する立場の三角ロジックを完成させてください。
- (2) 右側の三角ロジックの問題点を「反駁」の中に記入してください。
- (3) 最後に、すべての情報・分析を踏まえて結論・提言を記入しましょう。

